

仙台・文化財サポーター会活動記録（まちづくり研究部会）

活動記録（まちづくり部会）

○12月12日（金）

『陸奥国分寺と法領塚古墳』

- ・13時30分集合～15時解散
- ・参加者 15名

今回はガイダンス施設に集合し、佐藤陣一部会長から、まず陸奥国分寺について、施設内の資料をもとに説明を受けました。



内容

○国分寺と国府との距離

○伽藍配置について

高さ約57mもある七重塔

○国分寺と国分尼寺の関係性

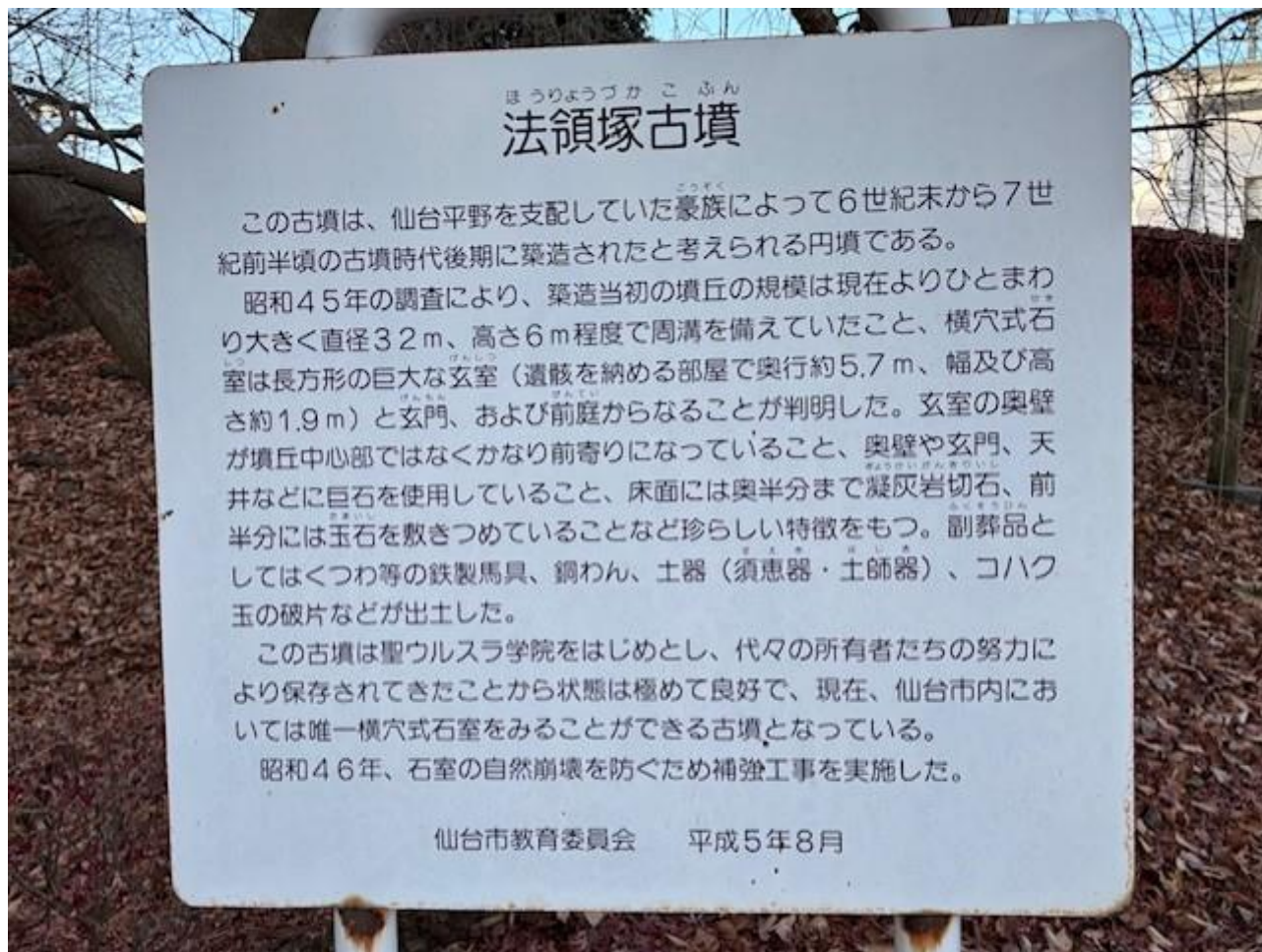
○陸奥国分寺と法領塚古墳と若林城は一直線に繋がっていること

○当時瓦は最先端技術。与平沼で30数ヶ所の窯跡が発見されていること

○新羅模様の瓦

などについて興味深い解説をいただきました。

その後、聖ウルスラ学院敷地北側にある「法領塚古墳」に移動し、今から約 1400 年前に造られた古墳の石室にまで入り内部の状況を確認することができました！



法領塚古墳は、古墳時代後期（7 世紀前半）の古墳で、

- ①当時の墳丘と横穴式石室を今に残す市内唯一の古墳であること
- ②直径 55 メートルと古墳時代終末期築造の古墳では東北地方最大級の円墳であること
- ③古墳の造り方が福島県や茨城県の古墳と共通することから他地域と交流があったことを読み取れること

以上の 3 点から、古墳文化が終わりを迎える時期において、当時の地域一帯を代表するような有力者の存在や、地域的な交流があったことを今に残す貴重な史跡であることが評価され、令和 7 年 2 月に仙台市指定文化財になっています。

○石室入口



○石室内部



○古墳から出土したもの（１）

金属製品など



○古墳から出土したもの（２）

土師器（はじき）



○古墳から出土したもの（3）

須恵器（すえき）横瓶



○古墳の上には、「法領権現」の石碑があり、延宝九という文字が読み取れます。延宝9年は1681年、梵字はキリクで千手観世音や阿弥陀如来を表します



○ 今年最後の例会は、あいにくの雪で、とても寒い日になりましたが、以前から車でこの道を通る度に気になっていた聖ウルスラ学院の樺大木の根本にある古墳を間近に見ることができ、しかも石室内部にまで入ることができましたことは大きな喜びです！
さて、来年はどんな新たな発見があるでしょうか！

今年一年お疲れさまでした。

以上、本多正明（記）

（参考資料）

・文化財せんだい NO141 令和7年（2025年）7月発行